

創業	2007年4月1日	
所在地	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL: 027-372-1230 FAX: 027-372-1255	
事業内容	機能性原料の製品化設計・試作 機能性素材・原料の研究開発 機能性分析と解析	
役員	理事長青木 麻生 (ハルナグループ CEO)所長邑上 豊隆 (農学博士)顧問池永 裕 (農学博士)	

ウエルネスサイエンス研究所は、ハルナグループの将来を見据え、自由な発想のもと、新しい価値を創造することを目的とする研究機関であります。社会的インパクトが高く、社内外に大きな影響をもたらすことができる組織として活動して参ります。

2016年度研究事業内容

■ ORAC (Oxygen Radical Absorbance Capacity) 測定法を用いた抗酸化原料の探索 ヒトの老化や物質の酸化は、自然界に存在する酸素 (活性酸素) により引き起こされると言われております。これら酸化を抑制する原料は、健康をキーワードとした市場での利用価値が 高く、未来原料として有益であります。2016 年度 169 検体を測定し、特に抗酸化作用が高い原料を導き出しております。

■蛍光測定法を用いた抗糖化原料の探索

糖化とは、タンパク質と糖質が消化される際に、反応過程で凝集物としてヒトのカラダの中 に蓄積し、老化を起こさせる現象であることが言われております。それらを抑制する抗糖化

原料の探索は、抗酸化原料と同様に健康をキーワードとした市場での利用価値が高いと判断しております。2016年度78検体を測定し、特に抗糖化作用が高い原料を導き出しております。



2017年度研究事業内容

■菌を抑制する天然物原料の探索

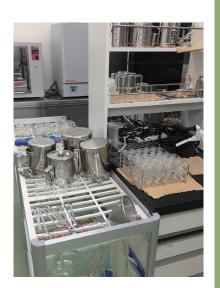
ペットボトル容器における茶系などの中性飲料(pH)は、菌の制御が重要となります。それら菌を抑制する天然物原料は少なく、新規原料を見つけだすことは利用価値が高いものとなります。本年度、これら原料の探索、研究を行い、商品に使用できる環境を整えます。

■機能性表示食品、特定保健用食品の研究開発

健康食品に位置づけされる、機能性表示食品や特定保健用 食品の数は著しい増加傾向にあります。高齢化社会への対応 とした機能性表示食品の研究、商品化に取り組んで参ります。

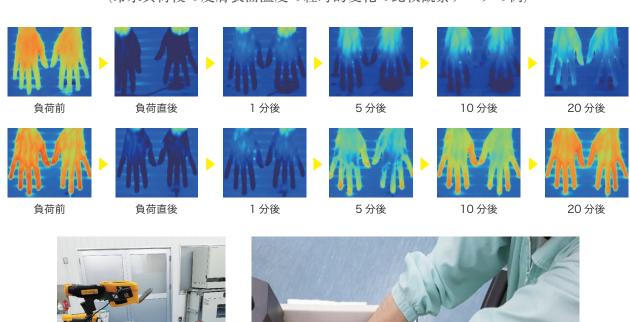
■抗糖尿病予防飲料の開発

食環境の影響で、年々糖尿病の患者数が増加しております。 日本だけでなく世界的にも同様な傾向にあるため、これらに 対応した抗糖尿病予防飲料開発のための研究を進めて参りま す。



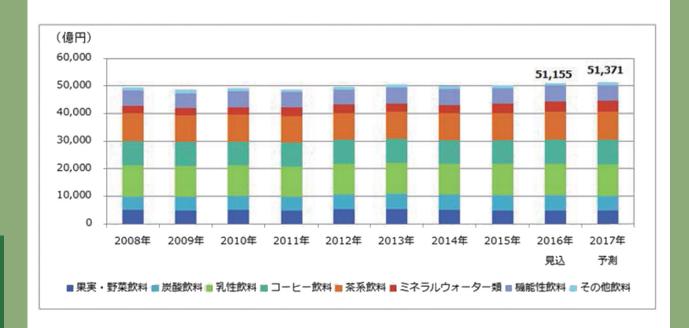
■抗酸化原料および抗糖化原料の探索の継続研究

〈冷水負荷後の皮膚表面温度の経時的変化の比較観察データの例〉



■■■ 海外事業の取り組み ■■■

日本の飲料市場は 2016 年度およそ 5.1 兆円と言われています。しかし、過去 10 年の市場成長は比較的他の業界と比べ安定的であるとはいえ、 $1 \sim 3\%$ 前後の成長率しかありません。さらに少子高齢化・人口の減少により、年々減少すると予測されます。



ハルナグループでは、現在もナショナルブランド・プライベートブランド(以下: PB) 商 品共作を中心に事業性を高め、これまでの挑戦をさらに強固にし、今後も高めることが重要と 考えますが、市場の縮小、製造コストの上昇、天災等、日本にも大きなリスクがあるのが現実 といえ、さらに厳しい市場環境になります。

また、ビジネスモデルも時代により変化が必要であり、将来を見据えまったく新たな挑戦に 舵を切り、新たな商品をもって新たな市場を開拓することを目指しました。

まず、国内で自社商品と優れたセレクトブランドを持ち、OEM の経験と自社商品等の経験をこれからさらに大きく伸びる市場で創り出すことをミッションと位置づけ、スタートしております。

ハルナの現在の事業内容は、ある程度整ったインフラとモダントレードの小売環境がないと 商いとしては困難と思われます。チャイナ・プラスワンと謳われてから約2年後の2010年後 半頃から構想し、新興するアジアに新しい活路を見出すべく中国をはじめ東南アジア各国へ営 業を行い、2012年頃から注力することとなりました。 その営業の中で、タイ王国(以下:タイ)にて具体的な大手のお客様との共同開発のチャンスを作り、タイをハブに事業を広げていく構想に至り、2013年4月にバンコクで Haruna Asia (Thailand) 株式会社を開設いたしました。

通常現地パートナーおよび日本の商社等と組んで進めるパターンが多いなか、自分の足で土地を歩き、見て、聞くことが将来の試金石になるとの考えで独資をスタート。顧客、現地原料・資材メーカー、工場をゼロからネットワーク構築していきました。

この3年間、走りながらの構築で大手 PB を3商品 (タイ全土)、コーヒーチェーン PB 3商品 (タイ全土) を作ることができましたが、事業的には厳しい状況は変わりませんでした。

2017年度は、このタイでの3年間と日本で培った技術・ノウハウ・情報を融合し、現地パートナーと経営統合して経営面と業務面で現地化を行い、新たにスタートを切ります。2016年度より自身も現地駐在を開始し、さらに一段階、二段階と深く根につけるよう、PBと新たな自社商品・セレクト商品を創出し、お客様をはじめタイおよび近隣国に微力ながら貢献を目指し、ハルナグループの価値をさらに高めていく所存です。



■■■ 食品安全への取り組み ■■■

2016年度に行った主な取組み

■ FSSC22000 認証取得への取組み

2006年に群馬県高崎市にあるハルナプラントにおいて、総合衛生管理製造過程(HACCP) 承認を取得し、製造ラインの衛生と製品の安全性に継続して取り組んでおります。その取り組みを基本として PDCA をまわし、より良い環境づくりと仕組みを構築していくことで、2015年にハルナプラントで食品安全マネジメントシステムのグローバルスタンダードである FSSC22000 の認証を取得しました。

グローバルスタンダードの FSSC22000 の認証取得はグループ全ての工場で取得を目指し、 ハルナプラントにおける認証取得の翌 2016 年には、群馬県みなかみ町にあるタニガワプラントでも認証取得を実現しました。引き続きハルナグループは FSSC22000 に取り組んでまいります。

総合衛生管理に基づいた取り組みおよび、食品安全マネジメントシステムをグループ全体で取り組むことで、飲料の製造工場として安全性を確保し、今後も継続してより良い製品づくりに取り組んでまいります。

FSSC22000 とは?

食品安全マネジメントシステムの国際規格である ISO 22000 と、それを発展させた ISO/TS 22002-1 (または ISO/TS 22002-4) を統合し、国際食品安全イニシアチブ (GFSI) が制定したベンチマークの承認規格です。世界の大手食品流通様や大手食品製造企業様が取引先に認証取得を求めているグローバルスタンダードです。



ISO22000 食品安全マネジメントシステム

HACCP 食品安全に関する技術的な手法

ISO マネジメントシステム 継続的改善を基礎とするシステム ISO/TS22002-1:2009 (食品製造) PAS223:2001 (食品包装材料製造) 一般衛生管理を強化した





ハルナプラント 認証と集合記念写真



+



タニガワプラント 認証と集合記念写真

■セキュリティー強化対策における指紋認証設備の導入

ハルナプラント、タニガワプラントにおいてセキュリティーの強化を目的に指紋認証設備を 設置しました。製造場へアクセスできる扉に設置することで、指紋認証登録者のみが製造場へ アクセスすることが可能、外部から製造場へのアクセス制限をさらに強化しております。本設 備は、入室した扉と時間や人物特定が指紋認証履歴(通行履歴)として制御システムに残ります。

設備導入により工場と製品の安全性をさらに高めることができ、外周の防犯カメラやマネジメントシステムである FSSC22000 の運用管理との相乗効果で、より安全な製品をお届けし続けます。また、ハルナジョイパックにおいても、2017 年中に同様設備の設置に向け準備を進めており、マネジメントシステム同様にグループ全体で統一した考えで食品安全に取り組んでおります。







設備設置例



指紋認証設備の通行履歴例

■■■ ビジネススクール ■■■ ~ 人財育成の取り組みと12 年間の実績~

ハルナグループでは、創業時より、企業価値を生み出す人財の育成にこだわり、力を注いでまいりました。そして、体系的知識の習得と自分の専門分野以外の見識を高めることを目的として、2005年4月にビジネススクールを開講し、12年間続けてきました。各階層において求められる共通のスキル・能力を習得する階層別教育、具体的な経営課題の解決に必要な専門的スキルの習得を目的とする経営者養成コースなどの講義を開催。また、自らを学ぶ社員をサポートする自己啓発の支援と、社員の能力開発と育成を行っています。

2016年度カリキュラム

■経営者養成コース

開講日	講師	テーマ
4月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	リスク・レジリエンス
5月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	マイナンバー制度について
6月	池永裕 氏 研究所顧問 (農学博士)	基礎研究及び商品開発
7月	須齋嵩 氏 社外取締役、群馬大学元教授	LOT
8月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	飲料市場の最新の動向と将来展望
8月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	10 年後のハルナの時代を構想する
10月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	経営者の心構え・あり方
Г	- 須齋 嵩 氏 社外取締役、群馬大学元教授	法則を知り、事業活動に生かそう
11月	岡 俊明 氏 社外取締役、サッポロビール飲料㈱元社長	目指そう 会社を強くするブランドづくりを
ウインター	小出 信介 氏 非常勤取締役、小出公認会計士税理士事務所代表	" ハルナグループの経営戦略・コーポレートガバナンスについて "
スクール	麻生 麻生 ハルナグループ CEO	グループ経営構想
L	- 青木 清志 ハルナグループ名誉会長	100 年企業の実現へ歩みだそう
12月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	未来構想に向けた経営について
1月	㈱インターリスク総研社	危機管理 事業継続計画 (BCP) について
3月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	"未来構想 豊かさには、光と影がある"
4月	常盤 文克 氏 花王㈱元会長	楕円思考で考える 経営の哲学

■中堅社員コース

■プライマリーコース

■特別コース(ハルナジョイパック)

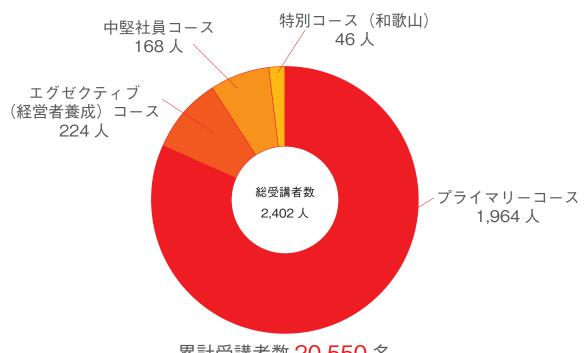
4月 仕事で感動をつくろう (顧客は感動から) FSSC22000 (FD 含む) について 顧客が満足するサービスとは 5月 商品開発について(商品開発を効果的に行うには) 微生物、アレルゲン、食中毒について 能力を生かす人財論 6月 マイナンバー制度について 労働安全(熱中症、AED など) 経営能力の伸ばし方 経営者のリーダーシップ 7月 労働安全について (労災をなくすには) 省エネについて 8月 関係法規について (環境、品質) 5Sの重要性について 経営担当者の心構え 8月 たばこと健康について 改善活動について(PDCA サイクル) 経営者が持つべき使命 10月 コミュニケーション力について 機械メンテナンスについて 事業発展のコツ 11月 リスク管理について(リスクを低減するには) たばこと健康について① コミュニケーション力について 経営入門のまとめ 12月 ケーススタディ (成功への原点) 危機管理について 1月 マネジメントシステムの重要性について たばこと健康について② リーダー論 2月 確定拠出年金制度について 確定拠出年金制度について 経済から学ぶ未来志向 3月 エネルギーマネジメントシステムについて 廃棄物管理(3R)について 経済から学ぶ未来志向②



2016年11月ウインタースクール開催

教育の取り組み

ビジネススクール総受講者数



累計受講者数 20,550 名 (2005 年開校より)

資格取得支援

